

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーに輝きを
Light Up Rotary



寛容の心で、
ロータリーの輪を広げよう

国際ロータリー会長 ゲイリー C. K. ホアン 2014～2015
富津中央RC会長 若鍋 武良
国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2357 第8回例会 2014. 8. 28 小雨

点 鐘：若鍋武良 会長
進 行：須藤 隆 副SAA
ソング：我等の生業
お客様：2790地区ガバナー 宇佐見 透 様
第4分区ガバナー補佐 野村進一 様

会長挨拶

若鍋武良 会長



皆様こんにちは。本日はガバナー公式訪問です。宇佐見透第2790地区ガバナー、野村進一第4分区ガバナー補佐にはようこそお出で下さいました。会員一同心より歓迎申し上げます。例会に先立つガバナー、ガバナー補佐と会長幹事並びに次年度会長幹事との懇談会では、RI や地区の情報についてお聞かせいただきました。後ほど講話を頂き、例会終了後にはクラブ協議会が予定されております。宜しくお願い致します。

所で、先週の土曜日に地区の「会員増強・退会防止セミナー」が千葉市で開かれました。第2790地区ですが、1997年に4,200人いた会員は、現

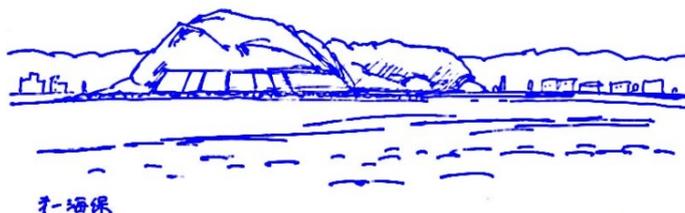
在2,721人です。セミナーは『目指せ、2790!』をテーマに、各クラブの会長、幹事と会員増強委員長が集まり開かれました。前半はパネルディスカッションで、1.会員増強の成功例、2.退会防止策、3.女性会員に増強について5名のパネラーからの報告があり、後半は各テーブルごとにテーマについての話し合いがなされました。「会員減少が続けばやがて組織は疲弊します。それ故に絶えず会員増強と退会防止策を考え、推進することが組織の本質であり、地域社会において魅力あるロータリークラブを創れば、会員は自然に惹き寄せられ、楽しく有意義なクラブライフが送れば会員は退会しない。」と言われます。いずれにしても、会員増強、退会防止は常に各クラブに課せられた責務です。今日のガバナー訪問、クラブ協議会を通して、ロータリーについて再認識をし、組織の充実について意識を深められることを願っています。

幹事報告

刈込一弥 幹事



〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



小久保

- 第4分区会長幹事会のお知らせ
期日 9月18日(木)
時間 15:00～
会場 かずさアカデミアホール 101 会議室
議題 IMについて・その他
- 会報受領、回覧します。
木更津東クラブ・袖ヶ浦クラブ

委員会報告

管理運営委員会

大網庄一郎 親睦担当部長
夜間月見例会について

標記については、プログラム通りきましたので、それぞれ準備に入ってください。まだ一ヶ月さきですが、我々素人には三句は時間が足りないかも知れませんので。

- 日時 9月25日(木) 午後6時 点鐘
- 指導・選者 三枝一雄会員ご夫妻
- 句題 (1) 月 (中秋)
(2) 彼岸 (因んで)
(3) 秋 //
- 句数 一人3句 以上

ニコニコ BOX

渡辺哲夫 親睦担当委員



若鍋武良 ガバナー・ガバナー補佐をお迎えして

以下同文

千葉一利 刈込一弥 大網庄一郎 須藤 隆
渡辺哲夫 平川恵敏 栗原典子 金子光晴
小野恒靖 石渡 鋼 原田雅式 白石幸久
榎本守男 三井 進 志波 克 高島治雄
高橋裕之
栗原典子 富津中央ロータリーおじさんバンドの

お仲間に入れて頂き有難うございます。

合計 19,000 円

出席報告

栗原典子 出席担当委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	25/23	18	5		78.26%
前回	25/22	20	2		90.90%

宇佐見 透 ガバナー 卓話



公式訪問挨拶「原点回帰」を目指して

国際ロータリー第2790地区 2014-15年度

ガバナー 宇佐見 透 (千葉幕張 RC)

富津中央ロータリークラブの皆様改めましてこんにちは。今年度 2790 地区ガバナー職を務めさせて頂いております宇佐見と申します。所属は千葉幕張ロータリークラブです。

皆様にはいつも御協力賜りありがとうございます。本日公式訪問させて頂きましたのは、2014-15 年度国際ロータリー会長ゲイリーホアン氏が提唱されましたテーマ「Light Up Rotary」を一刻も早く皆様にお伝えし、方針に基づくロータリーの目的を推進頂くと共に結束頂きたく直接お話しさせて頂こうとの思いで公式訪問させて頂きました。既に3月8日に開催しましたリーダーセミナー、3月29日に開催しましたPETS、そして4月29日に開催しました地区研修・協議会といういわゆる3大セミナーに若鍋会長、刈込幹事様ほかクラブ指導者の皆様に御参加を賜りご理解を頂いたうえで、スタートをされておられると思います。ガバナーという身に余る職責ではありますが、誠心誠意努力致しますのでご支援ご協力の程お願い申し上げます。

2000年にRIより地区に対しDLP(ディストリクト・リーダーシップ・プラン)を検討する旨の要請がありました。現在RI理事会によりガバナーは地区組織を構成するうえでDLPの構成に準拠したものを確立するよう要請されています。このことは現在会員減少に悩むクラブにとって、少ない会員数の中でどの様にすれば活性化するのかを検討したものであります。即ち従来の4大奉仕委員会をベースに取り組みうとすると一人で何役もこなさねばならない現実に突きあたります。そこで思い切った組織改革を考えようと取り組んだのがDLPです。具体的に申せば(1)社会奉仕プロジェクト、国際奉仕プロジェクトに関しては全て「奉仕プロジェクト委員会」なる新組織で統括する(2)増強を目的とした会員増強・退会防止委員会を新たに組織し会員選考や職業分類も含めた活動を行う。

(3)地域の人々に私たちの活動を具体的にお知らせする広報公共イメージ委員会を新設しロータリーの友委員会や会報委員会ともコラボレートする活動を行う。(4)親睦、出席、プログラムなど運営に関わる委員会は旧来のロータリー情報委員会をクラブ管理・運営委員会と変えこれら全てを統括する。以上4つの常設委員会と呼ばれる組織に大きく変えたのがDLPです。青少年、財団、米山は旧来のままです。このようにすれば少ない会員のクラブでも活性化できるのではと考えたのではないかと考えこれがCLPに繋がればと考えたのです。しかしこれを行うのはあくまでもクラブ自身です。実際の活動はクラブであり会員皆さんが主役なのです。

そこでわたしは先程RIがDLPを中心にした地区組織検討するよう云われておると申しましたがこのDLPの先に皆さんのCLPがあるとお考えください。ここが重要で今までCLPのみ導入しろと話されても目的が見えなければ解らなくとも当たり前です。ですから今年度はまず地区組織を変え活動内容と目的をはっきり示すことにしました。ロータリーは単年度制ですから来年また従来の地区組織に戻るかも知れません。ですが私は次年度の櫻木エレクトにこのことだけは変えないで欲しいとお願いしております。くどい様ですがガバナーとして、クラブの皆さんの理解を得ながら変革を試みようと考えています。

研修リーダーにもお願いし、DLPの確立のもと各クラブでそれぞれ、独自に検討、取り組まれているCLP(クラブリーダーシッププラン)の明確化に繋がればと考えています。この後のクラブ協議会でもCLPの目的と地区におけるDLPの位置づけから何故、今必要なのかなど、ご意見を伺えればと思っております。

1905年の発足以来一世紀を越えるロータリー活動には、時代の変化と共に変わった部分もありますが、変わらぬ原点は職業奉仕にあると考えます。私にとってロータリーとは、自らの職業を通しての倫理運動であり地域社会への貢献を基本に根ざすものであると考えます。定款にも「ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として、奉仕の理念を奨励しこれを育むことにある」と明記されております。ロータリアンを侍に例えた場合、職業奉仕とは、武士としての象徴を示す刀のような存在と思っております。侍は研鑽を重ね武士となり、帯刀を致しますが但しこの刀は戦(いくさ)の道具では無く、武士としての気構えの象徴です。ロータリアンの持つ刀は、自分を律する気持ち、又は誇りとして、自らの心の中に置いておくべき物でありロータリアンの心に宿る刀はロータリアン同士の厚い信頼関係に基づく不可能を可能に変える存在だと思います。キーワードは「和して同ぜず」です。「和する」すなわち友となり仲間となることは大変素晴らしいことであり皆で一緒に取り組み大事を成す事は大切です。しかし同時に、「同ぜず」が大切で「他人の意見に惑わされる事無く、自分の意見をしっかり持たねばならない」と考えます。「自らの職業に基づく人としての信頼回復」と「和して同ぜず」の2つをモットーにロータリーの復活による「原点回帰」を次年度テーマに、皆様の御協力のもと地区運営にあたってゆきたいと思っております。ロータリーは今やっていることだけを未来永劫変えることなく、続けてゆくという考え方から、変わりながら続けてゆく事の大切さを、改めて考えて頂きたいと思っております。ロータリアン同士、職業奉仕を心に携えてゆけば、ロータリーは再び新たな羽根を持ち大空に飛び立てる時が来ると確信しております。

会員増強についてホアン会長は新会員を引き付けつけると共に、現会員を維持し、世界で 130 万人への会員拡大を目標にされています。会員増強について、会員数の数字だけにこだわり「数は力なり」の原則のもと、会員を増やせ増やせとスローガンが掲げられますとすぐさま反発する形で「質」と「量」の議論が発生します。更に悪いのは、質か量かという命題を並べて、出来ない理由を議論し、やらない理屈を語る事です。増強問題は出来ない理由を語るマイナス発想ではなく、まずやろうとするプラス発想からのスタートが大切だと思っています。今年度の増強目標は地区に因んで 2790 名とし、各クラブに純増1名をお願いします。広報公共イメージ活動でロータリーがどのような活動をしているのかを地域社会の人々に知ってもらえるよう、「ロータリーデー」を開催して下さることを願っています。そこで私たちは、社会貢献という共通意識のもと、互いの絆を深め、時間、才能、資金を注いで活動するグループであることを広報下さい。私たちは「行動の人」であり、同じ目的意識を持つ人たちと協力して、地域社会が直面する問題を解決しようと努めていること、同じ様に地域社会のことを考える人びとを見つきたいと願っていることを伝えることが重要と考えます。にもかかわらず、認知度が低いと感じます。ロータリーが何を目的とし、何をしているかを知らなければ、入会しようという人や、協力しようという人がいないのも当然です。確固とした、好ましい公共イメージは、単にロータリーの気高さを高めるだけで無く、それによって奉仕志向の会員が増え、ロータリーの活動をさらにレベルアップする重要な戦略だと思えます。青少年奉仕活動について地域の方々及び学校教育機関の協力、顧問教師の方々の思い、御父兄の理解が必要で、信頼関係が無ければ成立しません。インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラ等での四委員会が「ロータリーデー」への参加を通じ、それぞれどの様にして地域社会との融合を保つ参加が可能なのか御検討下さい。未来のロータリアンを育成しましょう。米山記念奨学会事業は日本で学ぶ外国人留学生にロータリアン自身による寄付金を財源とした奨学金を支給する事業で、日本独自の特色である「カウンセラー制度」

「世話クラブ制度」が重要であると考えます。クラブとして「世話クラブの登録」「カウンセラー登録」を理解いただき、ぜひ米山記念奨学会への寄付目標である通常寄付と特別寄付の合計で一人 15,000 円達成をお願いします。最後にポリオ撲滅に関して 1979 年に始まったポリオ撲滅運動も 35 年におよぶ活動で、世界で 3 ヶ国(パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア)を残すのみとなりました。しかし本年 5 月 5 日に WHO はカメルーン、シリアなど非常在国からの発症報告に基づき「緊急事態宣言」を出しました。医師団が内戦に巻き込まれるなど予断を許さない状況でもあり国際的連携と取組みが求められています。当地区では毎年1人あたり25ドルをお願いしております。

クラブ協議会

宇佐見 透 ガバナー 挨拶



野村進一 ガバナー補佐 挨拶



クラブ運営方針

若鍋武良 会長

(1)クラブのテーマ

当クラブのテーマは「寛容の心で、ロータリーの輪を広げよう」です。ロータリーの創立者ポール・ハ

リスは「ロータリアンよ。寛容であれ」という言葉を残しています。

(2) クラブ創立48年目

富津中央RCは、1966年(昭和41年)10月13日、木更津RCを親クラブとして発足しました。今年にはクラブ創立以来、48年目の年になります。創設48年目の当クラブは、現在会員25名(うち女性会員1名)、平均年齢63.8歳、創立会員1名です。

(3) クラブの主な重点目標

・会員増強は会員全員の手で。

今年は純増2名を目指しております。会員皆様のお陰様で、5月1日に3名が、8月7日には1名が加入しました。

・例会を楽しみ、会員卓話を大切にしましょう。

私達ロータリアンは例会において「親睦」を通して心を磨き、自己研鑽に励みます。例会は親睦の場であり、「楽しく潤いがあり、且つ緊張のあるものに」、が例会の理想の姿だと言われます。例会を楽しみ、会員卓話を大切にし、親睦の絆を強めます。

・親睦の絆を強めましょう。

奉仕と親睦はロータリーの2本柱であり、車の両輪にたとえられます。ロータリーの実践的倫理基準「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に依拠して、「利己と利他との調和」という最高善を求め続けること、がロータリーと考えられます。

・委員会活動を通してロータリーの輪を広げましょう。

・2つの姉妹クラブ(山梨県塩山RC、台湾嘉義市嘉義南RC)との交流を深めましょう。

委員会発表

会員増強委員会

原田雅式 委員長

先ず富津市の現状をお話します。

8月1日現在の人口が46,139人です。今から40年前は57,000人でした。それと世帯が17,913です。1世帯平均2.6人と過疎化しております。こういう状況で3クラブありますので、難航しております。幸い当クラブは昨年3名、今年1名の加入があり、現在25名です。これを50周年までに30名としたい

と思います。(2年後)

具体的な活動方針

- ① 委員長(前年度委員長)の方針を引き継ぎ、次のグループから勧誘する
ゴルフ、マーじゃん、囲碁、将棋、お酒のグループ、バンド、当RC女子会
- ② 炉辺会合に入会予定者を誘う。
- ③ 例会、夜間例会、親睦会、家族会にゲストとして招待する。
(雰囲気を見て頂く)
- ④ 女性会員の増強をどうするか？
現在の栗原会員(女性)からの紹介、他
- ⑤ 優良企業2年～3年後の退職予定者、勧誘を推進する。
リスト先から今後退職予定者を事前に勧誘する。
- ⑥ 5人1チームとなり、各チームから1名を入会させる。
当クラブは25名で5チーム体制(チームの名簿は別紙)
- ⑦ 50周年までに30名とする。(2年後)
㊟リストからアタックする。㊟リスト別紙。

会報・広報委員会

石渡 鋼 委員長

会報に関しましては、毎例会の正確な記録を欠番無きよう、尚且つ面白くきれいな紙面を心掛けて居ります。幸いメンバーはPC操作の達人揃いで、月代わりで交代しています。

質問ですが、地区或はRI情報としての、「月信」・「ロータリーの友」のコピー、転載はどの程度許されるのか？(著作権などで)

管理運営委員会

千葉一利 委員長

過日の地区クラブ協議会で、管理運営委員会の役割は「クラブ活性化のお手伝い機関」として捉えようという説明がありました。それに倣って活動を進めていくことにした。

当委員会は三つの部会がある。一つは白石部長のプログラム部で、「四つのテスト」を諸計画実施の心構えとし、完全実施をアシストして行きたい。

多田部長の出席担当部は、出席率向上と楽しい例会づくりを目指し、活性化の援助をして行く。大網部長の親睦委員会は女子部フラダンス、男性の音楽バンドを中心に諸行事に参加し、独自の計画を実施して、楽しい例会造りに努める。この三つの部会が機能すれば、クラブの活性化ができると思う。

尚、クラブ活性化を次のように定義した。「全ての行事が漏れなく実施され、たてられた数値目標が全て達成されたとき、クラブが活性化されたとするか」、一応来年の6月、この定義通りにいったかどうか確かめてみようと思う。これはあくまでも当委員会がアシスト出来たかどうかの評価である。あまり無理をなさぬように「このクラブに入ってよかった」と来年の6月、全員が思えたならなんと素晴らしいことでしょうか。

奉仕プロジェクト委員会

大網庄一郎 委員長

奉仕プロジェクト委員会は4つの奉仕部門で構成されて居ります。

- ① 職業奉仕
- ② 社会奉仕
- ③ 国際奉仕
- ④ 青少年奉仕

時間の都合上、社会奉仕について申し上げます。

1. 主な行事

- ① 地域ふれあい行事への参加
- ② 介護施設への慰問

2. 内容及び方法

- ① クラブの会員(男性8名・女性1名)によるバンド演奏。
- ② 会員の家族7名によるフラダンス
- ③ 上記2グループの連携

3. 社会奉仕と親睦担当の共同歩調で活発にやっ て行きたい。

ロ財団・米山委員会

須藤 隆 委員長

当委員会にはロ財団担当と米山奨学会担当の2部門があり、それぞれの担当部長が具体的な目標設定を行い、それに基づいて会員からの寄付を募

っております。ロ財団が、私たちの寄付に基づく膨大な資金を、ポリオの撲滅や、飢餓の追放、平和の推進といった世界の慈善活動に友好的に活用しており、更には地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラントの補助金制度を確立して、各地域のロータリークラブが実践する海外や地域のニーズに合わせた奉仕活動にも補助金を支給しております。これらのことを私たち会員は十分に理解し、私たちの寄付が世界の慈善活動に有効的に活用され、社会に貢献をしているとの思いの下に、寄付への協力を会員にお願いしております。またロ財団の地区補助金、グローバル補助金等を利用した奉仕活動がこの第4分区でも活発に進められております。当クラブでも補助金対象になりうる社会奉仕活動を今迄に進めてきております。今後もこの補助金を利用できる奉仕活動を見出していきたく思っております。尚ロ財団への当クラブの寄付の実績はマルチポールハリスフェローが4名、ポールハリスフェローが10名、ベネファクターが2名と、少ない会員数の中でも高い実績を残しております。今年度については榎本担当部長が例年より早く寄付への協力を要請し、すでに今年度で新たなポールハリスフェローが誕生すると聞いております。ガバナーが御見えですので後程、担当部長から現在の進捗状況を発表させていただきます。米山奨学会については年間800人の留学生に14億円ほどの奨学金を出していると言われております。私たちの寄付が、海外からの留学生の奨学金として有効に活用され、将来の国際親善・国際貢献に資するとの思いで米山奨学会への寄付活動も進めております。

訪問日恙なくして金屏風

